

ハシズムの思想調査 暗黒の市役所



松井一郎府知事(上)と野村修也弁護士

焦るハシズム様

▼吹田市議が「橋下八策」に異議あり

大阪市特別顧問の野村修也弁護士は2月17日、約3万4000人の全職員を対象とした「職員アンケート」

について一時凍結の方針を明らかにした。アンケートは9日、橋下徹・大阪市長が命じたもので、16日が回答期限だった。

「回答しなければ処分す

思想調査にメールチェック——。橋下徹氏が大阪市長に就任してから僅か2カ月余りで、大阪市は「暗黒の役所」と化した。人気にあぐらをかいてやりたい放題に映る「ハシズム様」だが、意外にもその足元から反乱の兆しが見え始めた。

る」

橋下徹・大阪市長がそう明記した「強制調査」。実動部隊は野村氏が率いる第三者調査チームだった。アンケートの内容は▼組合が

大阪維新の会から謀反の兆し

現場で裁判を担当しない司法官僚で、司法界トップである最高裁判官への出世コースを歩んでいるのです。他の中央省庁のキャリア官僚と同様に、若いころから幹部候補として「純粋培養」される。その総本山こそ最高裁事務総局です。訴訟手続きや裁判所、司法事務処理の規則にはじま

り、裁判官の人事、下級裁判所の予算編成など司法行政を一手に担っています」憲法76条では、裁判官を「その良心に従ひ独立してその職権を行ひ、この憲法及び法律にのみ拘束される」と記している。

「裁判官の人事考課で最大のポイント」は、判決が上級裁判所で覆されること。刑事裁判で有罪率が99%に達するの、無罪判決が国家権力である検察への反逆と捉えられ、人事に影響するからです」(西川教授)

こうして誕生するのが「ヒラメ」と呼ばれる裁判官だ。海底で上ばかり見て

いるヒラメのように、自己保身のために上級庁や司法官僚の意向を気にしている。今のところ小沢裁判を担当する大善裁判長が「ヒラメ」かは分からない。しかし「小沢裁判は注目度の高い大物政治家の事件です。証拠採用の可否から判決に至るシナリオは事務総局が授けている」(事務総

本誌・鳴海 崇